

IV 花 き

実況 (10月17日現在)

1 キク

奥越地区では、秋植え夏ギクの定植が10月初めから10月20日頃まで行われた。一部地域では11月初めまでかかっている。春植えギクの親株の伏せ込みは10月中から下旬にかけて行われた。

病害虫として、黒斑病とリゾクトニア立枯れ病が少発生している。

あわら市の秋植えキクは10月10日頃までに定植が終了した。また夏秋ギクの親株の育成(台刈り、追肥等)を行っている。

病害虫は特に発生していない(10月17日現在)。

福井市では10月中旬頃から親株のハウスへの搬入が始まった。

病害虫として、搬入前の個体にアザミウマ類、ハダニ類が発生し、防除を行った。

越前町宮崎地区では、10月15日の調査(昨年:10月16日)、「金風車」では草丈105cm、蕾径8.6mmで収穫が間近である(昨年:草丈75cm、蕾径9.7mmで収穫間近)、「シューミルク」では草丈139cm、蕾径7.2mmで収穫に近い(昨年:草丈114cm、蕾径9.7mmで収穫盛期)。

春植えの8月咲きキクでは9月末から10月上旬にかけて、9月咲きキクでは10月中旬に伏せこみが行われた。

病害虫としては、カスミカメムシ類の被害が出ている。

越前市で10月16日の調査(昨年10月16日)で、10月咲きの白小ギクでは草丈79cm、蕾径8mm(昨年:草丈79cm、蕾径9mm)で収穫はまだ、黄小ギクでは草丈103cm、蕾径9mm(昨年:草丈115cm、蕾径9mm)で収穫に近い、赤小ギクは収穫が終了した(昨年:9月終わりごろに収穫)。

病害虫としては黒斑病が微発生している。

二州地区では、9月の彼岸出荷品種の一部で、10月上旬に開花がずれこみ、出荷が遅れた。

秋植えキクについては、10月29日に親株管理に関する講習会が実施された。

10月咲きギクは10月15日調査(昨年:10月23日)、「はくろ」が草丈85cm、蕾径8mm(昨年:草丈100.6cmで立弁)、「お吉」草丈90cmで蕾径7mm(昨年:草丈109.8cmで開花始め)、「ふるさと」は草丈85cmで開花盛期(昨年:収穫終了)であった。本年は昨年度よりも草丈が短く、開花は昨年並みか遅い傾向がある。

病害虫としては、一用品種でハスモンヨトウが少発生している。

若狭地区の施設 10 月咲きギクは 10 月 17 日の調査（昨年：10 月 23 日）で、「おちば」で草丈 95.6 cm、蕾径 8.5 mm（昨年：草丈 87.3cm、立弁）、「白馬」で草丈 96.2 cm、蕾径 5.6 mm（昨年：草丈 101.8 cm、蕾径 8.0 mm）、「おりづる」は収穫が終了した（昨年：収穫終了）。生育は昨年並みであるが、ばらつきがある。

病害虫として、アブラムシ類が微発生、アザミウマ類が少発生している。

施設 11 月咲き作型（電照）は、10 月 17 日の調査（昨年：10 月 23 日）で、「おちば」で草丈 89 cm、蕾径 3.4 mm（昨年：草丈 89.2 cm、蕾径 5.4 mm）、「白馬」で草丈 88 cm、蕾径 3.5 mm（昨年：草丈 94.6 cm、蕾径 4.5 mm）、「おりづる」で草丈 101.8 cm、蕾径 2.8 mm（昨年：草丈 94.4 cm、蕾径 4.4 mm）であった。生育は平年より遅くなっている。

病害虫として、アブラムシ類が少発生、アザミウマ類は中発生している。

寒菊は、10 月 17 日の調査（昨年：10 月 23 日）で、「冬一番」で草丈 72.8 cm（昨年：草丈 79.2 cm）、「寒桜」で草丈 64.6 cm（昨年：草丈 66.8 cm）、「新年の美」で草丈 79 cm（昨年：78.6 cm）で平年より草丈は短い。

病害虫としては、アブラムシ類が微発生している。

2 スイセン

越前海岸では、10 月 20 日の週から、促成栽培の出荷を予定している（昨年：10 月 10 日から）。季咲き栽培のノーズ（花芽+葉を含む）の発育状況は、8 月 27 日、9 月 9 日時点では昨年および例年に比べてやや早かったが、9 月 25 日時点では昨年より発育が遅くなり、総じて例年並みの生育となっている。

3 トルコギキョウ

坂井地区では、二度切り抑制栽培でレイナ系、ロベラ系、クラウン系の品種が用いられている。種子冷蔵苗（購入苗）の定植は 7 月 25 日～8 月上旬に行われ、10 月 10 日頃から出荷が開始された。昨年より 10 日～14 日早めになっている。これまでに夜温が極端に低い日が少ないため、バイカラー系の色の流れ、滲みは見られない。

病害虫は特に発生していない。



写真 1 収穫期のトルコギキョウ
（10 月中旬、あわら市）

福井市では、10 月上旬から中旬にかけて、直売所を中心に出荷が始まった。

越前市では、苗冷蔵作型では 7 月 27 日に定植が行われ（昨年：7 月 27 日）、10 月 16 日の調査（昨年 10 月 16 日）で、「レイナホワイト」では草丈 71 cm で収穫終盤（昨年：草丈 71 cm、収穫後期）、「レイナピンク」では草丈 75 cm で収穫終盤（昨年：草丈 78 cm、収穫後期）、「ダブルミント」では草丈 75 cm で収穫後期（昨年：草丈 78 cm、収穫盛期）であった。

病害虫は特に確認されていない。

4 ストック

坂井地区では、夏播き秋冬どりの作型のうち、移植栽培では、8月10日から定植始まり、活着は良好である。8月30日に定植されたアーリーアイアン系では草丈20~25 cm、発蕾はまだである。

直播栽培では、8月17日過ぎから播種が開始され、9月上旬に播種の最盛期を迎えた。一部の品種（8月17~25日播種のホワイトアイアン系など）で、10月上旬からビビフルF処理を行ったが、発蕾はわずかである。8月17日播種の個体では、草丈25~30 cmになっている。

病害虫としては、シンクイムシが部分的に多発生している（写真3）。

越前市では、8月20日から9月12日頃（昨年8月20日~9月20日頃）にかけてカルテットシリーズが直播された。8月20日頃の播種の個体は草丈28 cm（昨年：草丈33 cm、花蕾径4 mm）、8月27日頃播種の個体は草丈14 cm（昨年：8月末播種で草丈15 cm）、9月5日頃播種の個体は草丈5 cm、9月12日播種の個体で草丈5 cm（昨年：9月10日頃播種の個体で草丈5 cm）であった。

病害虫は特に確認されていない。

二州地区では、年内出荷の作型で、8月中旬から9月上旬に播種が行われた。草丈は6~7 cm程度に生育している（10月15日調査）。

1月~3月出荷の作型では、アイアンシリーズ3色（ブルー、ピンク、チェリー）の品種が9月20日に播種されたが、定植が遅れ気味である。

病害虫は、特に確認されていない。

若狭地区では、10月17日の調査（昨年：10月23日）で、9月上旬播種の作型（カルテットシリーズ）で、草丈が7~10 cm（昨年：13~20 cm）に生育している。

病害虫は特に確認されていない。



写真2 ストックの生育状況
(10月中旬、あわら市)



写真3 シンクイムシの被害

5 アリウム類

秋咲アリウムは、あわら市の季咲栽培で10月25日から出荷が始まった。草丈は80～90cmで、例年より長くなっている。

越前町宮崎地区では、10月15日の調査（昨年：10月16日）で、草丈85cm、収穫が10月下旬の予定である（昨年：草丈82cm、収穫は10月中下旬にかけて行われた）。昨年並みの出荷を見込んでいる。

病害虫は特に発生していない。

6 ハボタン（写真4）

福井市では、10月18日の調査で、早い品種では草丈が60～80cmに生育している。

病害虫としては、コナガが少発生している。



写真4 徐葉したハボタン

対策

1 8、9月咲きギク親株のハウス搬入と管理

- 1) 親株のハウス内への植え付け適期は11月上旬までである。キクの根は地温が5℃以下になると、新根の発生が悪くなる。10月下旬からは夜温が10℃を下回る日が増えてきているので、早めの搬入を励行する。奥越地区での目安で10月30日までに行う。
- 2) ハウス内に床幅90cm前後、高さ20cm程度の畝を準備する。土寄せ苗を7×10cm間隔で8～12条植えで定植する。
- 3) 植え付け床が乾いている場合は、早めに灌水し適湿にしておく。
- 4) 植え付け後は保温等を行い、速やかに活着させる。その後、ハウスのサイド側のビニールを、奥越では12月いっぱい、若狭地域では1月下旬までは開放する。
- 5) 植え付け後は月に1～2回、コロナフロアブル、ジマンダイセンフロアブルやダコニール1000等の予防剤で予防散布を励行する。コロナフロアブルはクロームメッキしていない金属部分の鋼管にはかからないように注意する。病気や虫の発生を抑制するため、適宜下葉かきを行い、風通しを良くしておく。白さび病が発生した場合は、ひどい病葉を取り除いた後にサフロール乳剤などのEB1剤系の治療剤を散布するが、耐性菌の出現を防止するため、治療剤の散布回数は最小限にとどめる。散布後冬孢子堆が変色(褐色)したら効果があったと判定するが、ストロビー系の薬剤は変色しないので注意する（写真5）。



写真5 薬剤散布後の白さび病

黒さび病の病斑がみられる場合は、ステンレス剤等で蔓延を抑制する。害虫ではアザミウマ類、ハダニ類の防除を徹底する。

白さび病、黒さび病の発生が止まらない時は、ハウス内にトンネルを設置し、十分に灌水して40～45℃で3日間蒸し、冬胞子堆を死滅させる(写真6)。

- 6) 植え付け後の灌水は控え目に行う。特に植付けが遅れた場合に土壤水分が高いと、活着不良を助長する。また、灌水する場合は晴天日の10時ごろがよく、灌水後は換気を十分に行う。厳寒期はできるだけ葉を濡らさないように灌水する。



写真6 トンネル設置
湿度100%を維持して
病斑を蒸し焼きにする。

2 スイセンの管理

1) 灌排水対策

今年は10月に降水量が平年よりやや少ないため、灌水できる圃場では積極的に灌水する。逆に圃場に停滞水がある場合は排水対策を実施する。ハウス栽培で土壤水分が少ない場合は、積極的に灌水を行い、適切な水管理を行う。



T字金具でハウスを固定

2)ハウスの雪対策を早めに行う。

中柱として、パイプや孟宗竹、丈夫な垂木を3～4mおきに設置し、ジャッキなどで突っ張り、補強管理を行う。この時、上部はハウスと連結すると良い。積雪荷重によって肩部が広がると倒壊しやすくなるため、ワイヤーなどでハウスの肩を引き付ける。筋交いは建設時に設置し、これを用いて補強を行う。



設置面には板を置く

写真7 ハウスの雪害対策

3) 病害防除

病害予防のためゲッター水和剤の1000倍液を散布する。展着剤も加用する。

4) 収穫

花一輪2分咲きで適期収穫する。収穫後はすぐに水揚げを行い、しおれを防止する。

3 ストックの管理

- 1) 昼間の気温を上げすぎると軟弱徒長し、さらに菌核病等の発生を助長するので換気に十分注意する。室温が20℃以上でサイドビニールは解放、夜温が8～10℃以下であればサイドビニールを閉めて保温するが、極力開放して通気性を確保し、病害発生を抑制する。
- 2) ストックのホウ素欠乏症は、葉、茎、花の各部位に発現し、葉の表皮の白化、茎割れ、茎の褐色斑点、開花異常の症状として現れる。ホウ素入り液肥を適時灌注する。
- 3) 出蕾を始めたら灌水、液肥施用は中止し、茎葉を硬くしめる。粘質土など乾きの遅い圃場では、さらに早めにこれらの対策を行う。

- 4) 菌核病は、連作地で発蕾期から発生し、株元から褐変して立枯れ症状で枯死する。灌水は午前中に済ませて株元の乾燥を図り、ポリベリン水和剤やトップジンM水和剤を散布する。後期はアフエットフロアブルを散布し、汚れに注意を払う。
- 5) 収穫適期は3~4輪が開花した時（市場によって多少異なる）を目安とし、手で株を引き抜いて収穫する。抜いた株は株元の緑色の部分で切り戻し、花穂が曲がらないよう真っ直ぐに立てて水揚げする。

4 トルコギキョウの定植作業

- 1) 栽培期間が長いため、特に土づくりが重要である。堆肥を2~3t/10a施用し、30cm以上の深さで耕起する。
- 2) 無加温ビニールハウスでは、遅くとも11月中旬までに植え付けをする。植え付け日の1週間程度前からハウスを密閉して、地温を十分あげてから植え付ける。
- 3) 本葉4枚になると茎が立ち始めるのでその前に定植する。
- 4) 植え付けは、晴天日や暖かい曇天日の午前中に済ませる。
- 5) 多湿条件下では、灰色かび病等が発生しやすいので、換気を十分に行う。発生時にはアフエットフロアブル、ポリベリン水和剤やゲッター水和剤などの薬剤で防除する。
- 6) 育苗中に植え付け後の活着促進のため液肥1000倍を施用する。

AMeDAS のデータ



